国産LLMの知財活用：現状とハイブリッド運用戦略

国産LLMの知財実務における現在地と課題を明確にし、海外モデルとの最適な使い分け指針を提示する。

国産LLMの現在地と評価

主な活用は上流の閉域環境



未公開発明の閉域処理で活用。

処理性能は海外勢が先行



翻訳・要約で海外モデルが先行。

真価はデータ主権と機密性



データ主権と安全保障面で優位。

実務における使い分け戦略

機密上流は国産・閉域モデル



閉域環境で未公開発明を保護。

公開調査・翻訳は海外モデル



高精度な調査・要約を効率処理。

要件ベースでの調達評価



保存先や運用環境の条件で評価。

知財業務の機密度に応じたモデル使い分け基準の明確化

業務領域	推奨モデル	主な理由
未公開発明・出願前ドラフト	国産・閉域LLM	秘匿情報・機密保持
公開公報調査・要約・翻訳	海外フロンティアモデル	処理精度・分析力
IPランドスケープ・戦略分析	AI＋専門家レビュー	高度判断の質向上

Gemini Notebook